

つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり(3年次)

～子どもが友達の表現に「価値」を見出すことができるようにするための教師の働きかけを通して～  
 国語科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」について

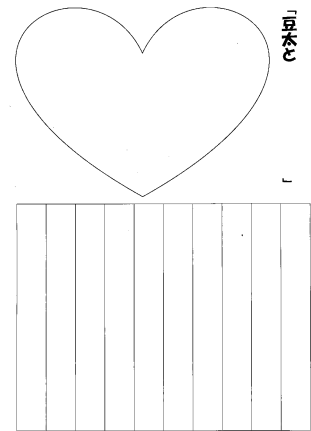
国語科において、「子どもたち一人ひとりが言葉を用いて表現する」ことは大前提であり、「言葉」というものを大切にして、教師はもちろんのこと、子どもたちも、「言葉」を吟味しながら、表現し合うことが大切なのであると考える。国語科の授業における「つながり」とは、教材はもちろんのこと、友だちとつながることが大切であるとする。友だちの活動・表現を見てメタ認知を高めていくことで、自分の表現を見直すきっかけになると考える。次に、「知的な深まりを楽しむ子ども」とは、「つながり」を通して、自分たちで「こうなりたい!」「～たい!」という、もっとより良いものにしたいという思いが増えることである。そのような思いをもちながら、さらに表現していくことで、再び友だちと「つながり」、自分たちでどんどんより良いものを目指していくことであるとする。

以上のことから、国語科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」とは、「言葉」を用いて友だちと関わることで、メタ認知を働かせながら自分自身を見つめ直し、「やってみよう!」「次は～たい!」という思いが増える授業である。

1. 子どもを「共通の土台」にのせるための働きかけ

○単元のゴールを示し、課題を明確にさせる。

単元の導入では、すでに学習した「サーカスのライオン」での「じんごとわたし」カードを示し単元のゴールイメージを示した。そして、本単元では、豆太の性格を想像しながら物語を読むことを伝え、単元の最初、中盤、終盤と三回にわたり「豆太とわたし」カードを書く活動をおこなっていった。そうすることで、豆太の性格が想像できる(「分かる」と「豆太とわたし」カードを書く(「できる」)をくり返しおこなっていきながら、単元や本時の課題を明確にさせていく。



○ネームプレートを用いて、自分の立場を明確にし、文章や友だちとつながりやすい状況をつくる。

本時では、四場面の豆太の性格の一つに「勇気がある」と確認したうえで、授業を進めていく。その中で、豆太の性格が「勇気がある」と一番感じた文を一つ選ばせる。その際に、ネームプレートで自分の立場を明確にさせる。子どもは、自分の立場を明確にすることで、ただ漠然と選んでいた文に対して自分の考えをもととするであろう。また、自分とは違う文を選んだ友だちに対して「なぜこの文を選んだのかな?理由を聞いてみたい」と友だちにつながろうとするであろう。

【「豆太とわたし」カード】

○単元を貫く発問で自分の状況を自覚させる。

単元の初めに、『豆太とわたし』カードを書くというゴールイメージをもたせ、毎時間「豆太はどんな性格なのか」を問う。その際に、本文を読み、豆太の性格が想像できる根拠となる文を選んでいく。その根拠に対して、前の場面の豆太と比較させたり、豆太と自分自身を比べたりすることで、「豆太の性格が想像できる根拠の文を見つけることができた?」「豆太とわたし」カードに理由を書けそう?と単元を通して発問することで、自分の状況を自覚させる。

## 2. 子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるための働きかけ

○理由を問うたり、問い返したりすることで子どもの思いや考えを言語化させる。

本時では、豆太の性格が「勇気がある」と想像できる文を選び、なぜその文を選んだのか理由を伝え合う活動をおこなっていく。その際に、意見に対して、「どの言葉からそう考えたの?」「その解釈はあっているの?」と声をかける。また、友だちの意見に対して、うなずいたり反応したりしている子どもの姿を見取り、「あなたは今の意見に対してどう思う?」「同じ文を選んでいるけど、同じ理由かな?」と問いかけたりしていく。このような問いかけや問い返しをおこなっていく中で、子どもが自分では気付いていない思いや考えを、自分の言葉で表現させていく。

○友だちに理由を聞いたり、立場が変化した理由を聞いたりすることで、友だちの表現に良さを見つける場を設定する。

ネームプレートを貼り、子どもが文を選んだ際に、「誰の理由を聞きたい?」と問いかけることで、友だちの存在が活かされるような授業を展開していく。友だちの表現を聞くことで、「どうしてこの文を選んだのかな」「その文から勇気を想像することができるのかな」と考えていた子どもは、自分の選んだ文と友だちの選んだ文を比較しながら、再度文を選ぼうとするだろう。また、最初に選んだ文と違う文を選んだ子どもに、「どうして変えたの?」と理由を聞くことで、友だちの表現に良さを見つけることができると考える。

1. 単元名 「豆太とわたし」カードを作ろう 「モチモチの木」(東京書籍三下)

2. 単元の目標

- (1)様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 話や文章の中で使うことができる。 [知識及び技能] (1)オ
- (2)登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。 [思考力・判断力・表現力等] C(1)エ
- (3)文章を読んで理解したことに基づいて, 感想をもつことができる。 [思考力・表現力・判断力等] C(1)オ
- (4)言葉がもつよさに気付くとともに, 幅広く読書をし, 国語を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力, 人間性等」

3. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 話や文章の中で使っている。【(1)オ】	①「読むことにおいて」, 登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 【C(1)エ】  ②「読むことにおいて」, 文章を読んで理解したことに基づいて, 感想をもっている。 【C(1)オ】	①学習の見通しをもって, 文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち, 考えたことなどを伝え合おうとしている。

※【言語活動】物語を読み, 「豆太とわたし」カードを作り, 自分の考えたことなどを伝え合う活動。

[C 読むこと(2)イ]

4. 指導観

本単元の重点指導事項は, 学習指導要領における〔思考力・判断力・表現力等〕の「C 読むこと」(1)オ「文章を読んで理解したことに基づいて, 感想や考えをもつこと」である。その際, (1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」を生かして教材を読ませるようしていきたい。また, 中心人物の行動描写や会話文に着目し, 情景を具体的に想像しながら読んだり, 中心人物の気持ちの変化や性格をより明確に捉えながら読んだりするためには, [知識及び技能] の(1)オ「様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 語句を豊かにすること」も必要となる。意味を理解し使える語句を増やし, 根拠となる叙述を明確にして自分の解釈を表現させていくことで, 想像を広げながら人物像を読み取ることができるようにしていきたい。

本学級の子どもは, 二年の同系統の単元「お手紙」では, 登場人物を自分と比べながら気持ちを想像する学習をおこなっている。また, 三年の「サーカスのライオン」では, 物語全体を通して, 気持ちやその変化が詳しく書かれている中心人物を見つけ, その人物がどのような人物かを想像する学習をおこなっている。しかし, 物語から読み取った中心人物と自分とを結び付けて思いや考えを伝え合おうことができる子どもは多くはない。そこで, 今まで学習してきたことを踏まえて, 本単元は「人物の性格を想像する」ことで人物の理解をさ

らに深めていくとともに、物語から読み取ったことや自分の経験を相互に関連付けながら想像を広げていくということにも重点を置いて指導していきたい。

本単元では、「物語を読み、『豆太とわたし』カードを作り、自分の考えたことなどを伝え合う」という言語活動を設定しており、単元を通して、豆太の性格を想像させる。また、自分が想像したことを伝えるためには、どの叙述からどのように想像したか、その理由と根拠を明確に示しながら自分の解釈を「豆太とわたし」カードに書かせていく。

本時では、『『勇気がある豆太』だと想ぞうできる文をえらんで理由を話そう』というめあてで学習を進める。まずは、前時で書いたワークシートを確認させながら、豆太の性格は「勇気がある」ということを全体で確認させる。そしてめあてを提示し、豆太の勇気があるということが分かる文はどこか考えさせる。一つの文を選ばせたら、その文の下にネームプレートを貼らせ、立場を明確に示す。理由を話し合う際には、まず「誰の理由を聞きたい？」と聞く。そうすることで、まずは友だちの表現に目を向けさせる。理由を発表しながら、話し合いを進めていく中で、ここでは、子どもに「本当にその文から勇気が想像できたの？」や「自分はこんな経験したことあるの？」と問いかけ、四場面の叙述だけから理由を述べさせるのではなく、自分自身の思いや考えを述べさせたい。また、「どの言葉からそう考えたの？」「そう考えた根拠はあるの？」と問いかけ、四場面だけでなく他の場面の叙述から根拠を見つけさせることで、さらに、自分の考えを表現させることができるようにしていきたい。それから、豆太が出せた「勇気」は自分がモチモチの木を見たいという思いだけで出すことはできず、大好きなじさまのために出せた勇気であることを全体で押さえていく。本時では、そんな豆太についての思いも表現させたい。また、発表を聞いている子どもには、「みんなもそう思うの？」「あなたは同じ文を選んでいけど、〇〇さんと同じ理由なの？」と問いかけることで、友だちの表現を使って話をさせたり、友だちの表現の良さに気付かせたりするようにさせる。文を変えたい子どもがいる場合は、「どうして変えたいの？」と理由を問いかけ、友だちの表現の良さに気付かせる。友だちの表現に良さを感じた子どもには、その姿を評価し全体に広げていく。授業の最後には、「豆太とわたし」カードを書かせ、最初に書いた「豆太とわたし」カードと比較させたり、全体の場で紹介し合ったりする活動をおこなっていく。

## 5. 指導と評価の計画（全 10 時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○中心人物の性格を想像して、「豆太とわたし」カードを書くという学習課題を確かめて、単元の学習の見通しをもつ。	・モデルを提示し、既習の教材文の中心人物、またどのような人物だったのかを想起させることで、学習の見通しをもたせる。	
2	○一場面の豆太の性格を想像させる。 ○根拠となる叙述を選び、「豆太とわたし」カードを書く。	・豆太はおくびょうで、モチモチの木が怖いということを確認する。	〔思考・判断・表現①〕 <u>観察・ワークシート</u> ○叙述から、豆太の性格を想像しているかの確認。
3	○二場面の豆太の性格を想像させる。	・豆太の昼と夜の行動を比較させることで、豆太が怖いのは夜のモチモチの木であるということを確認させる。	〔思考・判断・表現①〕 <u>観察・ワークシート</u> ○叙述から、豆太の性格を想像しているかの確認。

4	○三場面の豆太の性格を想像させる。	・豆太は夜のモチモチの木をいつかは見てみたいが、自分には無理だと思っていることを確認させる。	〔知識・技能①〕 <u>ワークシート</u> ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句を増し、話や文章の中で使っているかの確認。
5・6 (本時)	○四場面の豆太の性格を想像させる。 ○根拠となる叙述を選び、「豆太とわたし」カードを書く。	・豆太はじさまのためなら、勇気が出せるということに気付かせる。 ・豆太の性格は、「勇気がある」ということを全体で確認させる。	〔思考・判断・表現②〕 <u>観察・「豆太とわたし」カード</u> ○「豆太とわたし」カードに根拠となる叙述や理由を書いているかの確認。
7・8	○五場面の豆太の性格を想像させる。 ○根拠となる叙述を選び、「豆太とわたし」カードを書く。	・「豆太は一場面と同じ、おくびょうなの？」と問いかけることで、物語を通しての豆太の変化に気付かせる。	〔思考・判断・表現②〕 <u>観察・「豆太とわたし」カード</u> ○「豆太とわたし」カードに根拠となる叙述や理由を書いているかの確認。
9	○物語を通しての豆太の性格を想像して、「豆太とわたし」カードに書く。	・物語を通しての豆太の変化に気付かせる。	〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>観察・ふり返りの記述</u> ○「豆太とわたし」カードに書いている根拠となる叙述や理由を、進んで伝え合おうとしているかの確認。
10	○「豆太とわたし」カードを読み合う。	・友だちと自分を比べさせて、自分と違うところや同じところ確かめ合うということを確認する。	〔思考・判断・表現②〕 <u>観察・「豆太とわたし」カード</u> ○「豆太とわたし」カードに根拠となる叙述や理由を書いているかの確認。

## 6. 本時の指導 (6/10 時間)

(1) 目標 第四場面の豆太の気持ちを想像しながら読み、根拠となる叙述を選び、理由を話すことができる。

(2) 評価規準 **思** 「豆太とわたし」カードに根拠となる叙述や理由を書いている。

[C(1)オ] (観察・「豆太とわたし」カード)

### (3) 展開

○学習活動 ・主な子どもの反応	○教師の働きかけ □評価 (方法)
<p>1. 前時を振り返る</p> <p>○四場面で想像した豆太の性格を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おくびょうじゃなかったね。</li> <li>・この場面で豆太は勇気があると思ったよ。</li> </ul>	<p>○前時で書いたワークシートを確認させながら、豆太の性格は「勇気がある」ということを全体で確認させる。</p>
<p>2. 課題をつかむ</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「勇気がある豆太」だと想ぞうできる文をえらんで理由を話そう。</p>
<p>3. 課題を解決する</p> <p>○四場면을音読する。</p> <p>○「勇気」があるということが分かる文を1つ選ぶ。</p> <p>○理由をノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「でも、大すきなじさまの死んじまうほうが…」の文かな。「もっと」って書いているから、今まで怖いと思っていたものより怖いって書いているから。</li> <li>・「豆太はなきなき走った」の文は豆太の必死さが伝わってくるよ。怖かったけど勇気をふり絞って走ったと思うよ。</li> <li>・「モチモチの木に灯がついている！」の文だと思うよ。霜月二十日のぼんにしか見ることができない、しかも勇気のある子どもにしか見ることができないから、豆太の勇気が一番想像できるよ。</li> </ul>	<p>○「豆太とわたし」カードを提示させ、今日の授業の最後のゴールを示す。</p> <p>○豆太の勇気があるということが分かる文はどこか考えながら音読させる。</p> <p>○理由を述べた子どもに、「本当にその文から勇気が想像できたの？」や「自分はこんな経験したことあるの？」と問いかけ、子ども自身の経験を話させたり、四場面だけでなく他の場面の叙述から理由を見つけたりさせることで、自分の考えを表現させる。</p> <p>○発表を聞いている子どもには、「みんなもそう思うの？」「あなたは同じ文を選んでいるけど、○○さんと同じ理由なの？」と問いかけることで、友だちの表現を使って話をさせたり、友だちの表現の良さに気付かせたりする。</p> <p>○文を変えたい子どもがいる場合は、「どうして変えたいの？」と理由を問いかけ、友だちの表現の良さに目を向けた姿を評価する。</p> <p>○豆太が出せた「勇気」は自分のためではなく、大好きなじさまのために出すことができた「勇気」であることは全体で押さえる。</p>
<p>4. 学習を振り返る</p> <p>○「豆太とわたし」カードを書く。</p>	<p>○最初に書いた「豆太とわたし」カードを比較させたり、全体の場で紹介させたりする。</p> <p><b>思</b> 「豆太とわたし」カードに根拠となる叙述や理由を書いている。(観察・「豆太とわたし」カード)</p>